

授業概要

「人の心」を理解するために行われる心理学の実験や調査で得られる数値データは、数値の意味を解釈するために必ず統計的処理が行われる。心理学統計法Ⅱでは、心理学統計法Ⅰを基に、心理学研究で用いられる様々な統計的技法のなかから、相関分析、分散分析、多変量解析等の一部を紹介し、基本的ソフトの操作方法についても、演習も含め講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価など）
第 2 回	記述統計 尺度によるデータの特徴
第 3 回	記述統計と統計的検定
第 4 回	相関と相関係数
第 5 回	偏相関係数と χ^2 検定
第 6 回	χ^2 検定と t 検定
第 7 回	t 検定と分散分析
第 8 回	分散分析① 一要因分散分析
第 9 回	分散分析② 二要因分散分析
第 10 回	分散分析③ 二要因混合計画
第 11 回	重回帰分析① 重回帰式とパス図
第 12 回	重回帰分析② 注意点と結果の読み取り
第 13 回	因子分析① バリマックス回転
第 14 回	因子分析② プロマックス回転
第 15 回	因子分析③ 因子の解釈
第 16 回	定期試験

到達目標

心理学の実験や調査で用いられる基本的統計技法について理解する。
また数値データの意味を理解する。
統計の基本ソフトを用いて分析する方法を理解する。

履修上の注意

「心理学概論」「心理学研究法」「心理学統計法Ⅰ」の単位を修得していること。
「心理学実験」を履修していることが望ましい。
表計算ソフト Excel について基本的な使用法を理解していること。

予習・復習

次回講義予定の内容について教科書をよく読んで予習をしておくこと。
講義内で行われた小テストの復習は必ずしておくこと。

評価方法

定期試験 50%、受講態度 20%、講義内での小テスト 30%にて総合的に評価する。

テキスト

教科書は特に指定しないが、以下の本を参考にすることが望ましい

- ・参考書：SPSS と Amos による心理・調査データ解析
- ・著者名：小塩真司
- ・出版社名：東京図書
- ・出版年 (ISBN)：2008 年 (978-4-489-00675-3)